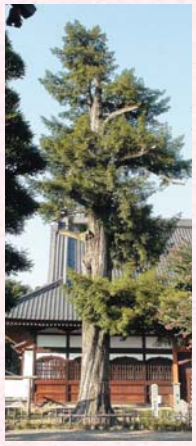

カヤの木

群馬県指定天然記念物　樹齢五百年以上

◎ 山　門

寺城のほぼ中央に建ち、訪れる人々の心を引き締めるかのように威風堂々とそびえる山門は、宝暦11年（1761）の建立で、市の重要文化財に指定されている。

◎ 鐘楼堂

天和3年（1631）に建立以来、梵鐘は時を告げ、平安を願う荘厳な音色を周辺に響かせてきたが、文化財保存され、現梵鐘は平成に再鋳造されたものである。

仁叟寺 四つの五百年

（当寺に伝わる五百年の歴史を有する寺宝）

①本堂
②本尊釈迦如来
③初代住職（開山）お手植の榧の木
④天宮の古井戸

○ 坐禅堂

昭和63年（1988）青少年の健全育成、さらに多くの人々に坐禅による精神修養と修行研修のために建立された本格的な坐禅道場である。

○ 文殊堂

平成6年（1994）中国仏教聖地五台山顕通寺御分身の文殊菩薩が御本尊。開運厄除・学業成就の参拝が多い。

○ 薬師堂

平成6年（1994）歴代住職守護仏の黒薬師如来が本尊。

○ 十三重石宝塔

平成十二年（二〇〇〇）完成。貴石、教典など収納。高さ十七ｍ重さ一六五トン、日本一の大きさ。

寺　歴

名称は天祐山公田院仁叟寺といい宗派は曹洞宗、大本山は永平寺・總持寺である。

室町時代、足利義満将軍の応永元年（1394）から正長元年（1428）にかけて吉井町奥平公田に奥平城主奥平貞訓公により創建された。

その後、子孫の貞能公が寺領を寄進した大永2年（1522）に現在の高崎市吉井町神保に寺を移して本堂を再建し開基となり、渋川市中郷雙林寺四世の高僧、直翁裔正禅師を初代住職に請して開山されたのが現在の寺のはじめである。

開山以来約五百年間戦乱の世にも厳然として格式を保ち続け天正18年（1590）奥平信昌夫人亀姫（徳川家康長女）より寺領を寄進され、さらに長根城主小幡公・宮崎城主奥平公・吉井城主菅沼公・地頭長谷川公同じく溝口公などの深い帰依と手厚い保護を受け、特に慶安2年（1649）徳川三代将軍家光公より寺領及び御朱印二十五石を改めて賜った。

下って明治23年（1890）には政府内務省より、県内全宗派寺院の中から世良田の長楽寺と仁叟寺の二ヶ寺が古社寺保存法指定を受け保存御下賜金を受けた。

大正9年（1920）に曹洞宗管長より宗門上位の随意会別格地の認可を受ける。この間、当時の豪商秋山豊次郎翁に寺門興隆に尽力された功により中興開基が贈られた。昭和20年（1945）の終戦と共に六町歩以上あった寺の土地は境内地のみ残し、全解放になり明治の廃仏毀釈と同様、苦難の時になるが檀信徒が力を合わせ運営維持が図られた。

昭和46年（1971）に仁叟寺全域と古文書が吉井町指定史跡となる。昭和63年（1988）より平成12年（2000）に至るまで諸堂の改修と建設が進み、現在の伽藍整備された寺に面目を一新する。この間、特に多大な功績を尽くされた最高顧問檀家・寺本欣正翁に再中興開基と曹洞宗管長表彰が贈られた。平成7年（1995）中国仏教第一の聖地五台山の顕通寺と友好寺院の締結調印をし文殊菩薩の御分身を文殊堂の本尊にお迎えし、以来相互交流を続けている。平成12年（2000）日本一の大きさの十三重石宝塔が完成。平成19年（2007）寺の歴史を7年半かけてまとめた『仁叟寺誌』が刊行された。通年に渡り、伝統諸行事を厳修している。

末寺は九ヶ寺（現在四ヶ寺）孫末寺は六ヶ寺（現在四ヶ寺）あり、名僧が輩出し禅風大いに奮い、鎮護国家・万民共和・五穀豊穣の祈願寺として法灯脈々と五百年、多くの人々の尊崇を受けて今日に至っている。

◎高崎市指定重要文化財　○寺本欣正翁寄進建立

仁叟寺のほとけさま

薬師如来像

応永年間、奥平に仁叟寺在りし時の御本尊。本堂内の室中に安置。（市指定重要文化財）頭部は平安時代末～鎌倉時代初期・躰部は室町時代初期。

文殊菩薩像

平成六年、中国五台山より初めて日本に渡り、文殊堂に奉迎安置。開運厄除・学業成就・家内安全・身体健勝・商売繁盛など功徳があらたかなり。

真佛苑（永代供養付墓地）

もうさみしくありません不安もありません。
仁叟寺が責任をもってお守りします。

このような方にご利用いただいております。

- 子供や後継者のおられない方。
- 単身・夫婦・親子・兄弟姉妹で埋葬を希望の方。
- 仕事やその他の事情で墓地を定めにくい方。
- 現在、お遺骨を保有されていて、すぐに納骨を希望されている方。
- 自分が初代でこれまでお寺との縁がなくこれから菩提寺を定めたい方。

一般墓地（檀信徒専用墓地）

お寺と檀信徒は、大きな家族であり永きにわたり固い絆で結ばれた心の故郷であります。仁叟寺を菩提寺と定め、檀家となっていただき、檀信徒の仲間と共に歩んで行く方々の墓地です。当寺の環境良好な境内隣接地に整えてあり、3尺角から9尺角まで各種の大きさの墓地が用意されております。